

第22回アートフィルム・フェスティバル

The 22nd Art Film Festival



草野なつか『王国（あるいはその家について）』2017年、愛知芸術文化センター・愛知県美術館オリジナル映像作品

Photo: 黒田菜月

- 会期 2017年11月21日(火)、22日(水)、23日(木・祝)、24日(金)、26日(日)
- 会場 愛知芸術文化センター12階アートスペースA 〒461-8525 名古屋市東区東桜1-13-2
- 主催 愛知県美術館
Tel.052-971-5511(代) Fax.052-971-5604 <http://www-art.aac.pref.aichi.jp/>
- 入場無料
- 協力・作品提供 アリانس・フランセーズ愛知フランス協会、アンスティチュ・フランセ、アルゴスフィルム、クリス・マルケル・ファンクラブ、(株)リトルモア、SOL CHORD、渡辺真也

◆同時期開催

①「インター・カレッジ・アニメーション・フェスティバル(ICAF)2017」

開催日：2017年11月19日(日) 会場：アートスペースA

主催：愛知県美術館、インター・カレッジ・アニメーション・フェスティバル2017実行委委員会

②「インターリンク：学生映像作品展(ISMIE)2017」

開催日：2017年11月25日(土) 会場：アートスペースA

主催：愛知県美術館、日本映像学会・映像表現研究会

*①②とも入場無料

■主旨

「アートフィルム・フェスティバル」はこれまで、実験映画やビデオ・アート、ドキュメンタリー、アート・アニメーション、自主制作映画など、商業ベースでは鑑賞する機会の少ない作品を紹介してきました。また、これら既存のジャンル区分を越えて作品を選出し、映像表現の先端的な動向を独自の視点から照らし出すことも意図しています。

第22回となる今回は、ビデオ・アートのパイオニアの一人であるナム・ジュン・パイクと、現代美術において現在も多大な影響力を持つカリスマ的なアーティストであるヨゼフ・ボイスによる、アジアとヨーロッパを一つの大陸文化圏としてとらえようとした壮大なプロジェクト「ユーラシア」にアプローチした渡辺真也『Soul Odyssey ユーラシアを探して』(2016年)を名古屋初公開します。『Soul Odyssey』は、特異なSF映画の傑作『ラ・ジュテ(La jetée)』(1962年)の作者として知られるクリス・マルケルから大きな示唆も得ています。ここでは、マルケルの代表作であるにもかかわらず、日本では限られた形でしか紹介されていない『レベル5』(1996年)を、新たな字幕を付け併せて上映する等の試みにより、『Soul Odyssey』のもう一つの側面にも光を当てます。

また1992年の開館以来継続している、「身体」を統一テーマにした実験的な映像作品を制作する企画「オリジナル映像作品」の最新作として、草野なつか『王国(あるいはその家について)』(2017年)を初公開します。長編デビュー作『螺旋銀河』(2014年)で映画ファンから大きな注目を集めた草野が、映画における本質的な命題「俳優が他者を演じることとは何か」、また「それが及ぼす身体的な変容」を問う、意欲作です。

さらに、今年4月12日に惜しくも逝去された映像作家・松本俊夫の追悼や、12月8日・9日に愛知県芸術劇場小ホール(有料公演)で再演されるモノローグ・オペラ『新しい時代』(2000年初演)に合わせた前田真二郎の特集など、多彩なプログラム構成となっています。

■プログラム解説

1 渡辺真也『Soul Odyssey ユーラシアを探して』名古屋初公開 パイクとボイス、そしてマルケル 11月21日(火)~23日(木・祝)

『Soul Odyssey』はキュレーターである渡辺真也の初監督作品で、パイクとボイスが手を携えて取り組んだプロジェクト「ユーラシア」をめぐる、実際にユーラシア大陸を横断する旅に出て、興味深い新事実を次々と掘り起こしてゆく意欲作です。本作品での、作者が旅することそのものを映画として仕立ててゆく発想は、エッセイ・フィルムの創始者の一人といえるクリス・マルケルの強い影響に基づくものです。この特集ではパイク作品から、東西交流や地球規模のコミュニケーション、アーティストとの共同により作られた作品をセレクト。またマルケルのメディア・アーティスト的な側面を照らし出す作品等を上映し、『Soul Odyssey』が持つ多彩な要素を浮き彫りにします。

2 追悼:松本俊夫作品集+新収蔵 伊藤高志『SPACY』ニュープリント上映 11月24日(金)

PR映画やドキュメンタリーからそのキャリアをスタートし、劇映画、実験映画、ビデオ・アート、インスタレーション、演劇やパフォーマンスの領域に到るまで、幅広く多彩な活動を行った松本俊夫。1992年の開館時に、愛知県文化情報センターは松本作品7本を購入していますが、これらは彼自身が選定したもので、その時点での自選作品集ともいうべきものでした。ビデオ独自の画像変換の可能性を追求した『Mona Lisa <モナ・リザ>』(1973年)から、虚構性を孕んだ自画像の試み『Dissimulation <偽装>』(1992年)に到る流れに、彼の核となるものを見出せます。併せて、昨年度、愛知県美術館が新収蔵した伊藤高志『SPACY』(1981年)を上映します。伊藤は九州芸術工科大学(現:九州大学芸術工学部)在学中に指導を受けた、松本の実験精神を引き継ぐ作家です。

3 モノログ・オペラ『新しい時代』開催記念 前田真二郎作品集 11月24日(金)

三輪眞弘が作曲・脚本・音楽監督を、前田真二郎が演出・映像を担当した、2000年初演のモノログ・オペラ『新しい時代』は、地下鉄サリン事件や神戸連続児童殺傷事件など、衝撃的な出来事が次々と起こった90年代後半の状況下、テクノロジーに神を見出し、歌によって永遠の救済を得るという世界を描き、強いインパクトを残しました。この作品が再演されるのに合わせ、前田真二郎の映像作品を特集します。前田作品には、見ることは何か、つまり人間の視覚への探求が一貫して根底にあります。それが音響や言葉へと敷衍し、さらには認識の問題へと深められてゆきます。そして、三輪との共同作業である舞台作品『新しい時代』にも、前田の問題意識は底流として流れ込んでいるのです。映像と舞台を併せて見ることで、その広がりを経験できる、貴重な機会となるでしょう。

モノログ・オペラ『新しい時代』 2017年12月8日(金)、9日(土)

愛知県芸術劇場小ホール(愛知芸術文化センター地下1階) チケット:一般3,000円 U25
1,000円 お問い合わせ:愛知県芸術劇場 Tel.052-971-5609(10:00~18:00)

4 愛知芸術文化センター・愛知県美術館オリジナル映像作品 最新第26作初公開:

草野なつか『王国(あるいはその家について)』 11月26日(日)

オリジナル映像作品の特色の一つは、監督を様々なジャンルから選定している点にあります。初期には勅使川原三郎や天野天街といった舞台系の作家を登用し、その後、大木裕之や石田尚志、辻直之ら実験映画の文脈から登場した新しい作家や、美術家の山城知佳子や田村友一郎らにも制作機会を与えてきました。その一方で七里圭や柴田剛、三宅唱といった映画監督が実験的な作品に挑戦するチャンスとなりました。草野なつかによる新作もこの系譜に連なるもので、デビュー作『螺旋銀河』(2014年)にも見られる「演技とは何か」を追求する姿勢が、より研ぎ澄まされた形で表われた作品となっています。

◆同時期開催

- ①「インター・カレッジ・アニメーション・フェスティバル(ICAF)2017」 11月19日(日)
- ②「インターリンク：学生映像作品展(ISMIE)2017」 11月25日(土)

新しい才能と映像の最新動向を知る機会として、「アートフィルム・フェスティバル」の会期に合わせ、学生アニメーションの祭典「ICAF」を継続的に開催してきました。今回より学生の実写作品を含む多彩な作品を対象とした「ISMIE」も行うこととなりました。

■上映スケジュール

2017年

11月19日(日)

13:30 インター・カレッジ・アニメーション・フェスティバル (ICAF) 2017

「各校選抜作品」など上映

*上映作品等の詳細はウェブサイト〈<http://www.icaf.info/>〉をご覧ください。

21日(火)

〈渡辺真也『Soul Odyssey ユーラシアを探して』名古屋初公開 パイクとボイス、そしてマルケル〉

17:00

ナム・ジュン・パイク『グローバル・グループ』 共作：ジョン・J・ゴッドフリー、
1973年、28分30秒、ビデオ ※

〃 『グッド・モーニング・ミスター・オーウェル』 1984年、
35分24秒、ビデオ ※ 計約64分

18:15

ナム・ジュン・パイク『ジョン・ケージに捧ぐ』 1973-76年、29分2秒、ビデオ ※

〃 『ナム・ジュン・パイク：テレビのための編集』 1975年、
28分14秒、ビデオ ※ 計約58分

19:30

ポール・パヴィオ『ジャンゴ・ラインハルト』 1957年、22分、35mm (ビデオ上映)、

ナレーション・テキスト：クリス・マルケル *英語字幕あり

クリス・マルケル『大使館』 1975年、21分、8mm (ビデオ上映)

*仏語ナレーション、コメンタリー日本語訳を配布

〃 『2084』 1984年、9分、ビデオ 〃 計52分

20:22 終了予定

22日(水)

16:30

ナム・ジュン・パイク『バイ・バイ・キップリング』 1986年、30分、ビデオ ※

// 『ラップ・アラウンド・ザ・ワールド』1988年、30分、ビデオ ※
計60分

17:45

ナム・ジュン・パイク 『ガダルカナル鎮魂歌 (レクイエム)』 共作：シャーロット・モーマン、1977-79年、28分33秒、ビデオ ※

// 『中国では切手は舐められない』 共作：グレゴリー・バトコック、1978年、28分34秒、ビデオ ※ 計約58分

19:00

クリス・マルケル 『レベル5』1996年、105分、ビデオ *日本語字幕あり

20:45 終了予定

23日(木・祝)

13:30

ナム・ジュン・パイク 『ドクメンタ6・サテライト・テレキャスト』 共作：ヨゼフ・ボイス、ダグラス・デービス、1977年、28分56秒、ビデオ ※

// 『メディア・シャトル:モスクワ/ニューヨーク』 共作：ディミトリ・デヴィアトキン、1978年、28分11秒、ビデオ ※ 計約58分

14:50

ポール・パヴィオ 『ジャンゴ・ラインハルト』1957年、22分、35mm (ビデオ上映)、
ナレーション・テキスト：クリス・マルケル *英語字幕あり

クリス・マルケル 『大使館』1975年、21分、8mm (ビデオ上映)

*英語ナレーション版、コメンタリー日本語訳を配布

// 『2084』1984年、9分、ビデオ // 計52分

16:00

クリス・マルケル 『レベル5』1996年、105分、ビデオ *日本語字幕あり

18:00

渡辺真也 『Soul Odyssey ユーラシアを探して』2016年、108分、デジタル・ビデオ

// 『朝崎郁恵による『哀史奄美』』2017年、23分、デジタル・ビデオ 計131分

20:11 終了予定

24日(金)

16:30

〈追悼：松本俊夫作品集+新収蔵 伊藤高志『SPACY』ニュープリント上映〉

松本俊夫 『Mona Lisa <モナ・リザ>』1973年、3分、ビデオ ※

// 『Enigma <謎>』1978年、2分、ビデオ ※

// 『Relation <関係>』1982年、10分、ビデオ ※

// 『Shift <シフト>』1982年、9分、ビデオ ※

// 『Engram <記憶痕跡>』1987年、15分、ビデオ ※

〃 『Trauma <トラウマ>』 1989年、18分、ビデオ ※

〃 『Dissimulation <偽装>』 1992年、20分、ビデオ ※

伊藤高志 『SPACY』 1981年、10分、16mm(ニュープリント) ★平成28年度新収蔵

計 87分

18:30

〈モノローグ・オペラ『新しい時代』開催記念 前田真二郎作品集〉

前田真二郎 『Braille』 1996年、11分、ビデオ

前田真二郎 『王様の子供』 1998年、40分、16mm ★オリジナル映像作品 計 51分

19:30

前田真二郎+真田操 『宇宙の人』 2001年、44分、ビデオ

前田真二郎 『L』 1995年、25分、ビデオ 計 69分

20:39 終了予定

25日(土)

13:30 インターリンク：学生映像作品展 (ISMIE) 2017

「各校代表作品」などを上映。また、推薦教員などによるトークショーを実施予定。

*上映作品等の詳細はウェブサイト〈http://d.hatena.ne.jp/e_h_kenkyu/〉をご覧ください。

26日(日)

〈愛知芸術文化センター・愛知県美術館オリジナル映像作品 最新第26作初公開

：草野なつか『王国 (あるいはその家について)』〉

13:30

草野なつか『螺旋銀河』 2014年、73分、デジタル・ビデオ

15:00

草野なつか『王国 (あるいはその家について)』 2017年、34分、デジタル・ビデオ

★オリジナル映像作品最新作

※上映終了後、監督によるトークを行います (約60分)。

16:40 終了予定

★：愛知県美術館蔵

※：愛知芸術文化センター・アートライブラリー蔵

やむを得ない事情によりプログラムを変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

広報掲載に関する問合せ先

ご掲載記事について、日時・会場・電話番号などの基本情報確認のため、ゲラ刷りを次までFAX もしくはメールでお送りいただきますようお願い致します。

広報担当: 白井 FAX: 052-971-5604 TEL: 052-971-5511(代) email: art11@aac.pref.aichi.jp

展覧会の内容に関する問合せ先

アートフィルム・フェスティバル担当: 越後谷 TEL: 052-971-5511(代)

記事等には、本展の問合せ先として以下をご掲載ください。

愛知県美術館

〒461-8525 名古屋市東区東桜1-13-2 TEL: 052-971-5511(代) FAX: 052-971-5604

ウェブサイト <http://www-art.aac.pref.aichi.jp/>

記事作成に関するお願い

画像(図版)をご使用の際は、「配布用画像用キャプション」内の情報を必ずご明記ください。開館中に展覧会会場を写真撮影される場合、フラッシュを伴う撮影はご遠慮いただきますようお願い致します。フラッシュによる撮影をご希望の方は、展覧会一般公開前日の内覧会の際か、休館日、もしくは閉館時間にお問い合わせ致します。